

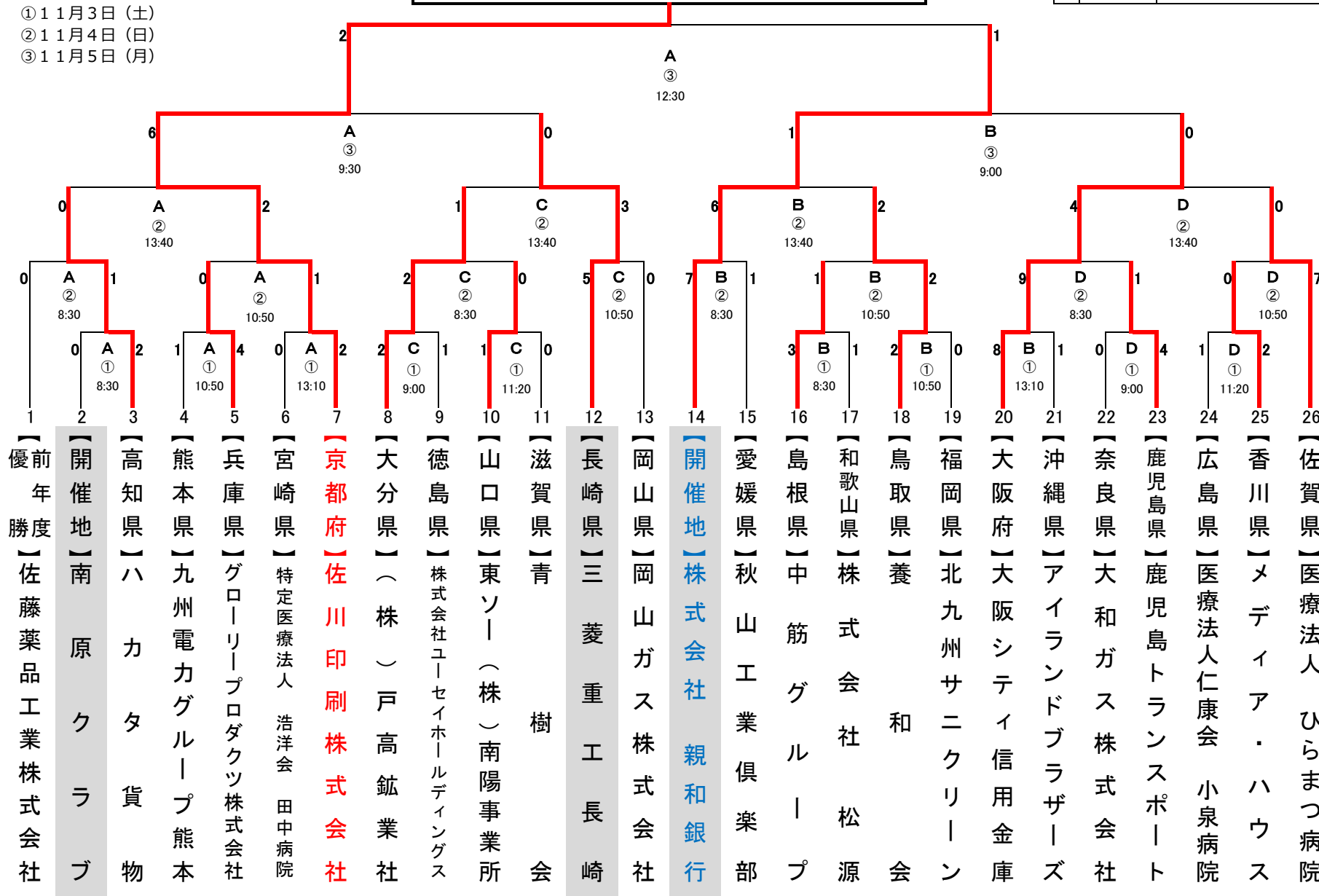
第22回 西日本軟式野球選手権大会

平成30年11月2日(金)～11月5日(月) 4日間
 監督会議 11月2日(金) 14 諫早観光ホテル 道具屋
 開会式 11月2日(金) 16 諫早市営野球場

A	諫早市	諫早市第1野球場
B	長崎市	長崎県営野球場
C	長崎市	長崎市総合運動公園野球場
D	大村市	大村市野球場

競技第1日 ① 11月3日(土)
 競技第2日 ② 11月4日(日)
 競技第3日 ③ 11月5日(月)

【京都府】 佐川印刷株式会社



【一回戦】 諫早第1野球場 11月3日(土) 08:29~10:15 1時間46分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	席	打	安	点	盗	犠	振	球	残	併	失
南原クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	31	7	0	0	1	4	0	5	1	0
八カタ貨物(高知県)	0	0	2	0	0	0	0	0	X	2	33	29	5	2	4	0	5	4	7	0	0

【三】有澤

【審判】石中(兵庫)、小田(平戸)、千住(諫早)、尾崎(県南)

二回に死四球に盗塁を絡ませた二死二三塁を逸した高知県は、続く三回に先頭四球からの一死三塁に市川が右適時打。二盗を決めた後に有澤の右中間三塁打で2点目を挙げた。

五回と六回にも3短打1四球により二死二三の追加点機を作ったが後続が抑えられた。

南原クラブの得点機は初回と八回の二度。先頭・青井が中前打し二進。上間の左前打で一死一三塁の先制機は一ゴロと二ゴロ。八回にも先頭・福永が左前打。投手牽制球死後に代打川原の中前打。犠打二進後に青井の左前打で一三塁としたが遊ゴロに終わり、相手2投手から得点を挙げることが出来ずに初戦で消えた。

【南原ク】 打安点球

⑧ 青井	4	2	0	0
⑤ 増丸	4	0	0	0
⑨ 上間	4	2	0	0
③ 上戸	4	0	0	0
②6 高井	4	1	0	0
⑦ 中村	3	0	0	0
⑥ 福永	3	1	0	0
2 坂田	0	0	0	0
① 工藤	2	0	0	0
H 川原	1	1	0	0
1 上川	0	0	0	0
④ 荒河	2	0	0	0

31 7 0 0

【八カタ】 打安点球

⑦ 吉野	4	1	0	0
⑨ 市川	3	1	1	0
H9 前田	1	0	0	0
④ 野々村	3	0	0	1
② 有澤	3	1	1	1
⑧ 西野	4	0	0	0
⑥ 森	4	1	0	0
③ 奥田	2	0	0	1
① 川添	1	0	0	0
1 田島	2	1	0	0
⑤ 濱田	2	0	0	1

29 5 2 4

南原クラブは創部10年目。平成23年高松宮賜杯1部県大会で優勝したが九州で敗退。同年の県民体育大会で優勝すると翌年の平成24年に県A級登録。本年までの6年間で九州連合会長杯に二度(1勝)、九州都市対抗は三度出場しているが、西日本選手権大会は開催地枠で初出場。



西日本選手権大会に初出場の、南原クラブ(大村支部所属)

- ⑩ 長野剛 ⑩ 高井祐輔 ① 中村夏樹 ② 上戸彰 ③ 川原雅敏 ④ 上川貴博 ⑤ 荒河直也
⑥ 川良好平 ⑦ 増丸歩夢 ⑧ 福永龍樹 ⑪ 上間大輝 ⑫ 田中海宝 ⑬ 坂田雄大
⑭ 工藤亮祐 ⑮ 只隈祐貴 ⑯ 峰航平 ⑰ 森直樹 ⑱ 立石陸 ⑲ 青井太志 ⑳ 中尾浩介

【二回戦】 長崎県営野球場 11月4日(日) 08:27~10:39 2時間12分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	席	打	安	点	盗	犠	振	球	残	併	失
株式会社 親和銀行	1	1	1	0	0	0	0	4	0	7	42	36	8	7	1	1	1	5	8	0	0
秋山工業(愛媛県)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	30	28	4	1	1	0	8	2	2	1	1

【三】山口 【二】北田、岡部

【審判】釘屋(山口)、樋口(福江)、横山(西海)、山崎(県北)

初回の親和銀行は先頭死球(二盗)を内野ゴロ三進後に北田が右前に落とし先取点。同点とされた二回は先頭安打の貫が犠打二進後に敵失で三進。岡部の一ゴロの間に本塁を突き勝ち越すと、三回は一死後に北田の左越え二塁打と、山口の中越え三塁打で加点。

四回二死後に出た岡部の左中間二塁打や、六回は安打の貫が三進した二死三塁は実らなかったが、八回にダメ押しで4点を奪い試合を決めた。先頭内山から3連続四死球。一死後に高坂の四球押し出しに続いて、岡部が二者を還す右中間打。さらに鹿田の二塁ゴロの間に三走の高坂が還って4点目。

対する秋山工業は、初回に先頭四球(二盗)から有友が左前に同点打。二死となって二盗を仕掛けたが憤死。三回二死後に安打した久枝も二盗死し、親和銀行の高坂の肩が勝った。七回は先頭有友が2安打目を放つも投ゴロ二進しただけで、九回一死後に死球出塁も二ゴロ併殺打で試合終了。

親和銀行の岡部は九回を完投し30人の打者に4安打8三振に与四死球2で失点は1。残塁走者は2人だけに仕留め、打っては二塁打含む4打数2安打2打点の活躍ぶりだった。

【親和銀行】 打安点球

⑦ 鹿田 海斗	4	0	1	1
④ 磯 祐一郎	5	0	0	0
⑧ 北田 亮祐	5	3	1	0
③ 内山 大輔	4	0	1	1
⑥ 山口 優大	4	1	1	1
⑨ 貫 亮介	4	2	0	1
⑤ 大竹 紘人	3	0	0	0
② 高坂 幸晴	3	0	1	1
① 岡部慎太郎	4	2	2	0

36 8 7 5

【秋山工業】 打安点球

⑧ 梅崎凌	3	0	0	1
⑤ 久枝	3	1	0	0
H 亀窟	0	0	0	1
④ 有友	4	2	1	0
② 木花	3	0	0	0
③ 日野	3	1	0	0
⑦ 阿部	2	0	0	0
7 河野	1	0	0	0
① 原岡	2	0	0	0
1 吉田	0	0	0	0
1 加藤	1	0	0	0
⑥ 梅崎竜	3	0	0	0
⑨ 田中	2	0	0	0
H9 松下	1	0	0	0

28 4 1 2

【二回戦】長崎市営野球場 11月4日(日) 10:58~13:33 2時間35分

【審判】 松浦(愛媛)
森川(長崎)
原口(諫早)
荒川(佐世保)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	席	打	安	点	盗	犠	振	球	残	併	失
三菱重工長崎	0	0	0	0	0	0	2	1	2	5	40	32	7	5	2	2	4	6	8	0	0
岡山ガス(株)(岡山県)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	31	5	0	1	0	6	0	4	0	1

【二】吉原 2

三菱重工長崎の楠本が九回31人の打者に対して5安打6三振無四球で完封した。二回、先頭に安打された二進後に暴投により、一死三塁の先制機のピンチを捕手牽制球による挟殺で免れると、三〜五回は9者を凡退。六回の安打は二死後で、七回には先頭2番小倉純と渡辺に連安打された無死一二塁のピンチも4番以下を抑え、九回は二死後に渡辺に安打され、4番を迎えたが三振に斬って残塁4の完封勝利。

楠本の好投に報いたい重工打線は六回まで1安打2四球。三回二死後に楠本の四球と吉原の左線二塁打で二三塁と攻めたが後続無く。七回先頭の富岡が安打。山口の四球と原の安打で一死満塁。三走が捕手牽制球で挟殺されて二死二三塁となったところで、坂田が中前に2点打し均衡を破った。

八回にも先頭の吉原が2本目の二塁打を左中間に。敵失と四球の一死満塁に松村の三ゴロで三走の大山が還り追加点。続く四球の満塁は抑えられたが、九回も代わった桑木に対し先頭の坂田が中前打。楠本四球の一二塁から、吉原の三前犠打で二三塁とし大山のスクイズと上杉の遊内野安打で2点を重ねた。

【三菱重工長崎】打安点球 【岡山瓦斯】打安点球

⑧ 吉原 貴大	4	2	0	0	⑦ 國定	4	0	0	0
④ 大山 駿	4	0	1	0	⑤ 小倉純	4	1	0	0
⑨ 植杉 真行	5	1	1	0	⑧ 渡辺	4	2	0	0
③ 富岡 壮馬	3	1	0	2	② 道下	4	1	0	0
⑦ 松村 逸人	4	0	1	0	⑥ 柿山	3	0	0	0
⑤ 山口 宰	2	0	0	2	⑨ 木田	3	0	0	0
⑥ 原 征一郎	4	1	0	0	③ 萬成	3	0	0	0
② 若松 大樹	2	0	0	0	① 小倉元	2	0	0	0
2 坂田 竜徳	2	2	2	0	H 福谷	1	0	0	0
① 楠本 健次	2	0	0	2	1 桑木	0	0	0	0
	32	7	5	6	④ 今宮	3	1	0	0
						31	5	0	0

【上記以外の三菱重工長崎のメンバー】登録は17人

(監督)中村勉 (投手)山口泰樹、岩見諒
(内野手)中山圭介、平野靖 (外野手)小林陸、稲澤和也



4年ぶり10回目の西日本選手権
大会出場の三菱重工長崎
過去の最上位は第2回(H10年)は
2勝してのBEST8。
第5回大会では二回戦から登場し
1勝してのBEST8。

【準々決勝】長崎県営野球場 11月4日(日) 13:35~15:47 2時間12分

【審判】 石中(兵庫)
木下(長崎)
山下(長崎)
北島(県北)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	席	打	安	点	盗	犠	振	球	残	併	失
株式会社 親和銀行	1	1	0	2	1	0	1	0	0	6	39	31	5	6	1	4	4	4	6	0	2
養和会(鳥取県)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	36	33	4	0	0	0	2	3	7	0	1

【二】貫、古賀、山口

初回の1失点を追う養和会は四球と連安打の二死満塁に三塁ゴロ悪送球で二者が還り逆に1点差を付けた。だが、二回以降は六度の三者凡退に終わり、三回は二死三塁、六回には二死後に安打を間の2死球で満塁としたが、親和銀行の先発・森内に後続を断たれ、七回から登板の東川には3イニングを9人で仕留められた。

先頭・鹿田が安打し犠打と捕逸で三進後に、北田の二ゴロ野選で先取点の親和銀行は、逆転された二回先頭の貫が左中間二塁打。暴投三進後に一ゴロ本塁悪送球で同点にすると、四回には死球と野選の2走者を古賀の左線二塁打で還して勝ち越し。五回には代わった永谷から先頭四球後に山口の左中間二塁打で加点すると、七回にも北田の先頭安打から二盗と一ゴロで三進し、山口の右邪犠飛とソツ無く加点していった。

【親和銀行】打安点球 【養和会】打安点球

⑦ 鹿田 海斗	3	1	0	0	⑨ 三浦	4	0	0	0
5 高井 航平	1	0	0	0	⑤ 猪口	3	0	0	1
④ 磯 祐一郎	4	0	0	1	⑧ 稲葉	4	1	0	0
⑧ 北田 亮祐	4	1	1	0	⑦ 金本	4	2	0	0
③ 内山 大輔	4	0	0	0	⑥ 山口	4	0	0	0
⑥ 山口 優大	3	1	2	0	③ 西賀	3	0	0	1
⑨ 貫 亮介	3	1	0	1	② 福島	4	1	0	0
⑤ 大竹 紘人	3	0	0	0	① 禱	1	0	0	0
② 古賀 太一	4	1	3	0	H 濱田	1	0	0	0
① 森内麟太郎	1	0	0	2	1 永谷	0	0	0	1
1 東川 賢輔	1	0	0	0	H 松本	1	0	0	0
	31	5	6	4	④ 浅川	4	0	0	0
						33	4	0	3

【準々決勝】長崎市宮野球場 11月4日(日) 14:05~16:25 2時間20分

【審判】永野(福岡)
土屋(長崎)
山邊(県北)
原口(諫早)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	席	打	安	点	盗	犠	振	球	残	併	失
三菱重工長崎	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	39	35	7	3	0	2	6	2	9	0	1
(株)戸高鋳業社(大分県)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	34	32	4	1	0	0	3	2	6	0	3

三菱重工長崎が先制攻撃で3得点し、先発の山口が六回まで、救援の岩見が三回を継投して2点差を守り逃げ切った。

前試合で2二塁打と好調の先頭吉原が左前打し大山も左前打で続き、植杉の捕前犠打で二三塁。ここで富岡が右適時打し吉原を還すと二死後の二三塁に山口が左へ2点打。更に死球の一二塁と攻め立てたが、打者8人で3得点を奪った。

二回以降は救援の甲斐を打ちあぐみ七回まで散發2安打走者のみ。八回からの小野に対しても連続敵失と四球で一死満塁と攻めたが後続を抑えられた。九回も敵失に吉原の安打と犠打で二死二三塁とし主将の植杉に期待したが投ゴロ。

戸高鋳業社は大分県津久見市登録のA級昇格2年目のチーム。二回一死後に四球と連安打の一死満塁に遊ゴロ併殺崩れの間1点を返したが、その後は六回二死後の安打と、七回二死後に悪送球で走者が二進。八回一死後に四球を得た3走者が出ただけで、反撃の機会を作ることができなかった。

【三菱重工長崎】打安点球 【戸高鋳業】打安点球

⑧ 吉原 貴大	5	2	0	0	⑥ 中西	4	0	0	0
④ 大山 駿	4	1	0	0	④ 平川	3	1	0	1
⑨ 植杉 真行	4	1	0	0	⑦ 新名	4	0	0	0
③ 富岡 壮馬	4	1	1	0	⑨ 姫野	3	1	0	0
⑦ 松村 逸人	3	0	0	1	7 山崎	1	0	0	0
①5 山口 幸	4	1	2	0	⑤ 薬師寺	4	0	0	0
⑥ 原 征一郎	3	0	0	1	③ 松下	3	0	0	1
② 若松 大樹	4	1	0	0	② 後藤	4	1	0	0
⑤ 平野 靖	3	0	0	0	⑧ 井上	3	1	0	0
1 岩見 諒	1	0	0	0	① 岡部	0	0	0	0
					1 甲斐	1	0	1	0
					H 川野	1	0	0	0
					1 小野	1	0	0	0
						32	4	1	2

【準決勝】長崎県宮野球場 11月5日(月) 08:55~10:42 1時間53分

【審判】石中(兵庫)
森川(長崎)
山邊(県北)
土屋(長崎)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	席	打	安	点	盗	犠	振	球	残	併	失
株式会社 親和銀行	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	34	31	5	1	0	1	2	2	6	1	0
大阪シティ信用金庫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	29	4	0	0	1	2	2	5	1	1

【二】正岡

【親和銀行】

⑦ 鹿田 中安	3FC	4-3	4-3
④ 磯 1-3E	投犠打	8F	中安
⑧ 北田 DB	5-3	Ⓚ	B
③ 内山 6-2-3	4-3	1-3	1-3
⑥ 山口 9F	5-3	3F	8F
⑨ 貫 5-3	K	6-3	6-3
⑤ 大竹 9F	中安	8F	3-1
② 高坂 1-3	5-3	右安	
① 岡部 左安	2FF	6-3	

【大阪シティ】

⑦ 岡本 1-3	K	3FF	5-3
⑥ 正岡 左中二	5-3	5-3	6-3
④ 西郷 1-5-4	Ⓚ	8F	4-3
② 小寄 7F	8F	9F	5-3
⑨ 黒田 8F	3A	中安	5F
⑤ 津田 5F	左安	B	
⑧ 古川 8F	右安	6-4	
③ 大原 4-3	3-1	B	
① 田中 1-3	4-3	投犠打	

親和銀行の岡部が九回を86球の省エネ投法で完封した。大阪の得点機は四度あった。初回一死後に正岡が左中間二塁打。続く投ゴロで二三塁間挟殺され転送球で打者走者も二塁で憤死し併殺。五回は二死後に連安打の一三塁。七回も二死から安打と四球。八回には先頭四球を犠打二進し上位に廻したが二者が倒れた。岡部は七回には23球を投じたが、六回は僅か6球で三者凡退に打ち取る等、余力を残した。

親和銀行は初回に鹿田が安打出塁し敵失と死球の無死満塁の好機を遊ゴロ本塁併殺で逸した。三回には先頭の岡部が左前打。一ゴロが野選となり磯がバントで進めて二三塁に、北田が二球目を三ゴロ。岡部が生還して先取点を挙げ、これが決勝点。

四回は大竹が、七回は高坂が安打するも二死後で後続が無く、八回には安打の磯が二盗死した後に北田が四球(二盗成功)出塁したが、こも後続が倒れた。



【(株)親和銀行の登録選手=18名】 (監督) 桑原隆史 (主将) 高井航平
(投手) 東川賢輔、栗山和高、森内麟太郎、安井謙造、岡部慎太郎、鳥越大地
(捕手) 古賀太一、高坂幸靖 (内野手) 山口優大、内山大輔、大竹紘人、磯祐一郎
(外野手) 鹿田海斗、西郷龍太郎、北田亮祐、貫亮介

大阪シティ信用金庫(大阪市信用金庫)は、第1回(H9年)西日本選手権大会で優勝以来、第18回大会(H27年)までに連続で決勝戦進出。第3回~第9回の7連覇や第11回~15回の5連覇を含む、優勝14回・準優勝4回を誇る強豪チーム。親和銀行は平成28年第20回大会二回戦で対戦し、0-4敗戦の雪辱を果たした。

古くは、平成7年の福島国体で親和銀行が準優勝した時の決勝戦が大阪市信用金庫でこれも0-2の敗戦。また長崎がんばらば国体の前年、平成25年東京国体の決勝戦は長崎県選抜と大阪市信用金庫。0-1でサヨナラ敗戦し県勢の国体初優勝を阻まれた。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	席	打	安	点	盗	犠	振	球	残	併	失
佐川印刷(株)(京都)	0	0	0	4	0	1	1	0	0	6	40	35	10	6	0	3	4	2	7	0	0
三菱重工長崎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39	31	7	0	0	1	3	7	12	1	0

【三】横田 【二】上林 2

【佐川印刷】

⑧	権	右安	6-3	4-3	B	6-3
④	石田	投犠打	9F	1L	8F	4-3
⑤	岡本	5-3	7FF	6-3	6F	9F
⑨	上林	3-4	中二	7L	右二	4-3
②	東	Ⓚ	捕犠選	二内安	7F	
③	内田	6-3	左安	投犠打	左安	
⑥	横田	中安	右三	左安	Ⓚ	
①	三宅	Ⓚ	6-3	DB	...	
H	松下	3A	
1	木村	
1	横垣	
⑦	濱田	右安	1-3	7F	Ⓚ	

【三菱重工長崎】

⑧	吉原	7F	DB	Ⓚ	3FF	5-4-
④	大山	7F	2-5	6-3	5F	左安
⑨	植杉	DB	7F	5F	中安	4-3
③	富岡	左安	6F	B	中安	
⑦	松村	中安	Ⓚ	左安	5-3	
⑤1	山口幸	3-5-4	B	8F	9F	
⑥	原	3A	9F	4-3	7F	
②	若松	5-3	
H2	坂田	...	DB	6-3	Ⓚ	
①	楠本	右安	捕犠打	
1	岩見	
H5	平野	B	B	

三回までに二度の得点圏走者を遣せなかった佐川印刷だったが、四回に4点をもぎ取った。先頭上林のあたりは中前に落ち打球が跳ねあがる間に二塁打にすると続く東の捕前バントが三塁への野選となり、内田の左前打に横田の右線2点打と連続の短長打。一死後、濱田への4球目に三走がスタートして投ゴロで生還し4点目を挙げた。

六回は先頭東の内野安打から横田の安打や死球の二死満塁に権の四球押し出し。ここで交代した岩見からも七回一死後に上林が2本目の二塁打を右線に打ち、東の左中間飛球でタッチアップし三進すると、内田の左前打で6点目。

三菱重工長崎は初回二死後の死球出塁も二盗死。二回は富岡、松村の連安打で一二塁。山口への初球はインコース高め。これを一塁側にバントしたが一塁手の内田が猛ダッシュで処理し三塁封殺後、転送球で併殺に仕留められた。三回は一死後に楠本が右前打し、吉原が死球の一二塁に捕前バントが三塁に送られ封殺。五回の先頭死球は犠打二進し上位に繋いだが後続無く、六回一死からの四球と松村が安打した一二塁も、佐川印刷先発の三宅に抑えられた。

七回まで投じた三宅に対して4安打6四死球と毎回走者を出したが、効果打が出ずに、八回から登板の木村に対して先頭の植杉が中前打。富岡も右中間に連打し無死一三塁と五度目の得点機を作ったが、後続の三人が倒れると、九回にも四球と大山が安打し二死一二塁としたが期待の植杉は二ゴロに終わった。

回	年度	開催地	三菱重工長崎の西日本選手権大会での戦績
2	H.10	佐賀	【一】 5-0 石田紙器(鳥取)
			【二】 3-0 和歌山県庁(和歌山)
			ベスト8 【準々】0-1 山陰合同銀行(島根)
3	H.11	徳島	【一】 2-5 大津市役所野球部(滋賀)
5	H.13	鳥取	【二】 6-1 チップチップベースボールセンター(沖縄)
			ベスト8 【準々】1-2 佐藤薬品工業(奈良)
11	H.19	大分	【一】 6-2 WEST KING(愛媛)
			【二】 0-2 博愛病院(大分) = 前年度優勝
12	H.20	高知	【一】 0-6 日本通運四国(香川)
14	H.22	沖縄	【一】 0-10 青樹会病院(滋賀)
15	H.23	鳥取	【一】 2-1 J R西日本米子(鳥取)
			【二】 0-7 大阪市信用金庫 = 前年度優勝・大会5連覇
16	H.24	福岡	【一】 1-2 グローリー株式会社(兵庫)
18	H.26	岡山	【一】 0-1 オール和歌山(和歌山)
22	H.30	長崎	【二】 5-0 岡山ガス株式会社(岡山)
			【準々】3-1 戸高鋳業社(大分)
			ベスト4 【準】 0-6 佐川印刷(株)(京都)
			4年ぶり10回目出場 7勝10敗



選手宣誓: 植杉真行主将

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	席	打	安	点	盗	犠	振	球	残	併	失
株式会社 親和銀行	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	38	37	11	1	1	0	5	1	10	0	0
佐川印刷(株)(京都)	0	0	0	0	0	0	0	0	2x	2	33	31	8	2	0	2	2	0	5	1	0

山下(長崎)
川本(佐世保)
天野(佐世保)

【二塁打】 磯、高坂2、貫(親和)、東、内田(佐川)

【親和銀行】

⑦ 鹿田 海斗	8F	4-3	Ⓚ	4-3	Ⓚ
④ 磯 祐一郎	左中二	4-3	Ⓚ	1-3	3F
⑧ 北田 亮祐	Ⓚ	9F	4-3	中安	
⑥ 山口 優大	中安	左安	左安	4F	
③ 内山 大輔	9F	3T	8F	5F	
⑨ 貫 亮介	Ⓚ	7F	5-3	左中二	
⑤ 大竹 紘人	左安	右安	6F	3FF	
② 高坂 幸晴	左安	右中二	右中二	1-3	
① 岡部慎太郎	2F	B	3F	7F	

【佐川印刷】

⑧ 権 栄樹	遊内安	中安	3A	2FF
④ 石田 純平	2-6-3	5-4-	9F	右安
⑤ 岡本翔一郎	4-3	右安	4-3	投犠打
⑨ 上林 達也	3A	6F	6F	4F
② 東 修介	K	9F	4F	左中二
③ 内田 祥文	5-3	8F	5-3	左中二
⑥ 横田 卓也	4-3	中安	1F	サヨナラ
① 宮迫 清二	3FF	投犠打	...	
H 柄須賀亮平	中安	
R 松下 拓司	
1 遠藤 涼太	
⑦ 濱田 拓末	4-3	Ⓚ	4-6-	

先取点は初回の親和銀行。一死後に磯が初球を左中間二塁打。北田が三振に倒れた後、山口が初球を中前に転がし二塁から磯が生還した。二回以降も八回まで毎回安打走者を出したが無得点。惜しかったのは二回一死、一二塁に捕飛。四回は一死後に短長打と四球の満塁で上位に廻したが連続空振り三振。五回にもこの試合3安打目の山口が二盗を決めたが後続なし。六回と八回はどちらも一死後に高坂と貫が二塁打したが、相手先発の宮迫に後続を抑えられ、九回は救援の遠藤に対し三者凡退。

対する佐川印刷は初回先頭安打もバント失敗による捕併殺打。四回に2安打が出て一死一二塁と初の得点機も後続が凡飛。五回は一死後の安打を犠打で進めたが後続が無く、八回を終わって二塁を踏んだのが二度きりで三塁が踏めず、親和銀行の岡部は八回終了時で84球。

九回先頭で2番の石田が一二塁間を抜き犠打二進。二死後に主将の東が左中間に同点の二塁打。続く内田への初球は岡部の95球目。打球は左中間をライナーで抜けた。

岡部はビッグNでの大阪戦で九回完封し、30分の会場移動しての連投だった。

回	年度	開催地	親和銀行の西日本選手権大会での戦績
1	H.9	山口	【一】 3-2 三洋電機加西(兵庫) 【二】 0-1 (10回)中山ファイターズ(沖縄)
17	H.25	大阪	【一】 0-2 佐川急便関西(開催地)
20	H.28	高知	【一】 6-2 (13回)大和ガス(奈良) 【二】 0-4 大阪シティ信用金庫
21	H.29	京都	【一】 2-1 森自動車野球団(和歌山) 【二】 6-0 八カタ貨物(高知) ベスト8 【準々】0-5 佐藤薬品工業(推薦) = 4連覇
22	H.30	長崎	【二】 7-1 秋山工業倶楽部(愛媛) 【準々】6-2 養和会(鳥取) 【準】 1-0 大阪シティ信用金庫 準優勝 【決】 1-2 佐川印刷(株)(京都)
			3年連続5回目出場 7勝5敗

